

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993
開館：月曜～金曜 10時～17時



初めてサッカーを見に行きました。家族みんなで観戦できて楽しかったです。ちょうど子どもがサッカーを習い始めたので、とても良いタイミングで見に行くことができうれしかったです」
(緑区・N 絵：6才)

《表紙の絵/作品/写真 募集中！》

- ①絵/作品/写真のタイトル
- ②簡単な説明
- ③掲載する氏名またはペンネーム、年齢
- ④連絡先（氏名、メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたは郵送にてお送りください。

●E-mail：
aозora@aichi-shien.net
メールフォーム➡



《もくじ》

- 表紙絵(グランパス観戦).....1
- めぐりあい花見会に参加して/「ノートルダム
の鐘」感想&観劇交流会企画への思い...2
- あおぞらカフェ「放射能について学ぼう」に
参加して.....3
- イベント情報/本の紹介「図説・17 都県
放射能測定マップ」/さっちゃんのレシピ...4

「めぐりあい交流花見会」2019(4/6)へ参加して

(福島県南相馬市から避難 高橋 佳世)

震災から 8 年が経過し、また桜の季節がやってきました。震災当時 2 歳だった長男も新 5 年生、生後 1 ヶ月半だった長女も新 3 年生となり、希望に胸を躍らせています。

8 年前の春頃、名古屋キリスト教社会館での交流会の時は、やんちゃな長男と、数時間毎の授乳が必要な長女をかかえ、今後の見通しも立たず不安でいっぱいなまま参加していたのが、昨日のことのように思い出されます。終わりのないように

思える孤独な育児で疲れ切っていた私ですが、支援して下さる方が子どもたちのお世話をして下さり、心置きなく大人だけのおしゃべりが出来て、とても癒されホッとしたのを覚えています。

8 年経ってもこうして名古屋錦ロータリークラブの方を始めたくさんの方たちに支えられて、ふるさとの皆様とホッとしたひとときを過ごす事が出来、本当に感謝しかありません。本当にありがとうございます。これからも感謝の気持ちを大切に、日々過ごしてまいりたいと思います。

福島の復興を願っています!! 

劇団四季「ノートルダムの鐘」観劇交流会 (4/6)

[参加者の感想から抜粋]

●妻と二人、久しぶりにとても良い時間を過ごさせていただきました。何より、この観劇を企画してくださった一宮商業高等学校生徒会の方々とお話できたことが一番の喜びでした。震災から 8 年、私自身の記憶も薄れていく中、先輩から後輩へと受け継がれ続けてこられている活動、その想いと力にとってもパワーをいただきました。そして、生徒さんの笑顔と明るさがサイコーでした。今度は、私たちが皆様の活動を支える力になればと強く思いました。(岡崎市・小野)

●劇団四季を初めて観る子ども達の心にも、何かを残してくれた劇だったと思います。震災前までの私は、人のために動くことができない人間だったように思います。避難という選択を決断して、ようやく様々な事柄を俯瞰して見るできるようになったように思います。まだまだ若い高校生の皆さんが避難者の立場を理解しようとしてくださったと思うと、それはとても有難い事です。心より感謝しております。(緑区・工藤)

「笑顔のプレゼント」を 観劇交流会企画への思い

(愛知県立一宮商業高等学校 教諭 櫻井千絵)

本校では、東日本大震災の被災者支援の活動として、「笑顔のプレゼント」をコンセプトに募金活動を実施してきました。この活動で寄せていただいたお金で、被災者の方をミュージカルに招待し交流しています。この取組も 2 回目となり、平成 30 年度は一宮市立北部中学校にも協力していただきました。

劇団四季『ノートルダムの鐘』公演の当日には、活動の中心となった生徒会メンバーもご相伴し、来場された被災者の方々と直接お話しする機会をいただくことができました。皆様の笑顔やかけていただいたお言葉に、生徒たちの方が沢山エネルギーをいただきました。生徒たちは、自分たち

が活動したことが誰かのためになり、それが何倍にもなって自分たちに返ってきたことに驚くとともに、とても感激していました。学校へ戻ってから、生徒会メンバーが全校集会で当日感じたことを伝え、これからも自分たちにできる社会貢献を続けようと呼びかけました。

東日本大震災から 8 年が経ち、日々の生活の中でこの震災のことを思い出すこと自体が少なくなりました。だからこそ、この小さな募金活動が意味をもっているのだと思い、これからも生徒たちの活動を支えていきます。

次の機会に皆様と再会できることを楽しみにしています。

避難者の皆さんが中心に企画する「あおぞらカフェ」が、3月18日(月)に「放射能について学ぼう」をテーマに開催され、6世帯7名の参加者(+ボランティア)がありました。参加者した方に感想を寄せてもらいました。なお使用したテキストは、紙面4ページの「本のご紹介」欄をご参照ください。

「本当のことを知ることが、
不安の解消に繋がる」(押田 準子)

講師の名前を拝見して、故郷の隣町出身?と、勝手な親近感から学習会に参加しました。『放射能測定マップ』の書籍を参考に、解りやすく説明して下さる内容に、だんだんと引き込まれて、あっという間に予定時間をオーバーしました。あの日、私の住んでいた所にどれだけの放射能が降ったのか? 現在は? 未来は? と、漠然とした不安を抱えていました。だけど、学んだ後で楽な心境に変わりました。本当のことを知ることが不安の解消に繋がることを、改めて考えさせられました。私の稚拙な疑問にも、丁寧に答えていただけて嬉しく思います。

一緒に参加した若いママ達の専門的な質問に、原発を解きたい、風化させまい、と頑張っている姿をみました。爆発の後、全てを棄てて、苦渋の選択をした思いに心が痛みます。今後も放射能について、気さくに学べる機会を設けていただけたらありがたいですね。『放射能測定マップ』の書籍をいつでも読めるように、いつも目の前に置いています。



「土壌汚染地図からわかる
原発事故被災者の被曝」(松井 寛子)

封じ込める目処の立たない東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故から9年目に入っすぐの3月中旬、「原発事故避難者の会・愛知」が主催する

放射能汚染地図の勉強会があった。開催場所は共催の愛知県被災者支援センターで、みんなのデータサイトマップ集編集チームが昨年クラウドファンディングで発行した『図説・17 都県放射能測定マップ+読み解き集』[*P4 参照]を「市民放射能測定センター(Cラボ)」(名古屋市)の大沼淳一氏がスライドを使いながら内容紹介してくれた。

世間では原発事故の風化が論じられる中でも、この放射能測定マップは重版になる人気ぶりだそうで、放射能防御を続けている人々が大勢いることがわかる。

改めて汚染地図を眺めてみると、2011年の原発事故のせいで東京を含む関東・東北の大部分が放射能でひどく汚染されたこと(P13)が実感できる。私達の避難先の愛知県は載っていないが、講師の話で三河地方の茶で一般食品の基準値を上回る放射能汚染があったということから、愛知県も調査対象として詳細マップがあるとなおよいと思う。

都県ごとの土壌汚染地図はもちろんのこと、放射能防御の周辺知識として、福島原発事故では大気圏内核実験時代よりもチェルノブイリ原発事故時よりも大量の放射能が放出されたこと(P108)、空間線量でみる外部被曝だけでなく空気・水・食べ物からの内部被曝が今後も要注意なこと(P113)、水道水の汚染(P69)などが盛り込まれている。

勉強を通して、原子力発電所がなければ私達が被曝させられることもなかったことと、すべての原発を廃炉にするまで不断の取り組みが求められることを再認識した。被曝が原因でおこる病気は転移しやすい甲状腺ガン(P185)だけではなく多岐にわたること、現在も新たな放射能が福島第一原発から放出され続けていることを考慮すると、この汚染地図も甘いと感じる向きもあるだろう。が、出版物として手元に置いておける便利さと、汚染が色分けされているので幼児から汚染レベルを判別しやすい点が良いと思った。

6月イベント情報

開催日	イベント名	内容（主催）	最寄駅
2日(日)	甲状腺エコー検診&交流相談会	「千秋病院」で甲状腺エコー検診&交流相談会があります。お弁当・アロマの癒しなども。子どもは託児で遊べます。別途お申込みください。	JR 尾張一宮駅東口より名鉄バス「岩倉駅行き」で20分、「元小山(もとおやま)」下車。

さっちゃんのレシピ

じゃがいものシャキシャキ酢の物



[材料]じゃがいも中2個、人参30g、酢大さじ1強、砂糖小さじ1杯半、塩小さじ1/4、ゴマ適宜

[作り方]

1. じゃがいもと人参はできるだけ薄切りにして、それをできるだけ細いせん切にする。
2. じゃがいもはさっと水洗いして澱粉を落とす。
3. 鍋に湯を沸かし、沸騰してからじゃがいもと人参を入れ、再度沸騰したらザルにとり冷水にさらす。
4. 冷めたら水を切り、調味料で味付けしてゴマをふる。

(注) じゃがいもはゆすぎない事、シャキシャキした歯ごたえを残す事。

『本のご紹介』



『図説・17都府県 放射能測定マップ +読み解き集』

全国31ヵ所の市民放射能測定所が参加する(2019年1月現在)ネットワーク「みんなのデータサイト」が、17都府県3400余地点の土壌中放射能を測定し、地図と解説を200頁にまとめた書籍です。お問合せは下記へ。

◎みんなのデータサイト出版

〒960-0201 福島市飯坂町字一本松 11-7
NPO 法人ふくしま30年プロジェクト気付
Tel 024-573-5697

◎未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター(Cラボ)

〒467-0058 名古屋市瑞穂区
関取 146

Tel/Fax 052-836-3116
(水・木・金 11:00~16:00)

* 寄贈された閲覧本がありますので、ご興味のある方はお気軽に愛知県被災者支援センターにお立ち寄りください。



編集後記



- ・避難してきた時は五年生だった娘も自動車教習所に通い始め、仮免許を取得しました。学業とアルバイトと教習所。頼もしく育ってくれている事に感謝です。(S.Y)
- ・竹の子と スナップエンドウ 次々と たくさんもらい 毎日料理 (T.H)
- ・「誕生日ありがとう」。長女の誕生日は4月21日。私が「おめでとう」を言う前に、彼女は毎年こう言ってくれます。産んでくれてありがとう、という意味だそうです。「いえいえ、こちらこそありがとう」。(K.K)
- ・5月。水田に水が張られ、大小のプールのように、小さな命が動き出す、わくわくの季節。(T.K)